

○残りビエ対策（ハーブ米・つや姫に使用する場合は使用回数は1回です）

除草剤名	使用時期	使用量 (10aあたり)	使用方法	使用回数
クリンチャー 1キロ粒剤	移植後 7日～ノビエ4葉期 収穫30日前まで	1kg	水を十分にためて散布。 ノビエ専用剤	2回 以内
	移植後25日～ノビエ5葉期 収穫30日前まで	1.5kg		
クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期 収穫30日前まで	薬量100ml 水量25～100ℓ	湛水散布又は落水散布。 ノビエ専用剤	
クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ノビエ5葉期 収穫50日前まで	薬量1000ml 水量70～100ℓ	落水散布（足跡に水が残っている程度）広葉雑草にも効果あり。	

○紋枯及び稲こうじ病予防

高温多湿（28℃～32℃）の条件で発生しやすくなり、幼穂形成期ごろから病気の勢いがよくなるので、その頃が重要な防除時期にあたります。特に昨年発生した水田では発生する可能性が高いので、予防を徹底して下さい。

※JA育苗センター使用の稲大將箱粒剤には紋枯れ病の予防剤が含まれております。

対象病害	農薬名	使用時期	使用量 (10aあたり)
いもち病予防	コラトップ粒剤5	6月中旬 葉いもちには初発10日前～初発時 穂いもちには出穂30日前～5日前まで	3～4kg
紋枯病予防	バリダシン粉剤DL	穂ばらみ期～出穂期 収穫14日前まで	3～4kg
紋枯病 稲こうじ病予防	モンガリット粒剤	出穂2～3週間前に水深3cm以上で散布 収穫30日前まで	3～4kg

○穂肥

穂肥については籾数の確保・粒重量増加のため以下の例に基づき、田んぼの状況にあわせて行いましょう。

注：穂肥の多施用は倒伏の原因となります。特にコシヒカリについては葉色を見て施用量を減らすなどの調節をして下さい。

品 種	施肥時期（幼穂長）		穂肥 化成肥料 17-0-17 (10aあたり)
つきあかり	1回目	出穂25日前（1mm程度）	9kg
	2回目	出穂15日前	9kg
コシヒカリ	1回目	出穂20日～18日前（5～8mm）	7～8kg
	2回目	出穂10日前	7～8kg

- ・こめ次郎くんを使用する場合は、出穂25日前に30kg/10aを1回施用。
- ・セラコートRワン・楽一を使用の場合穂肥は不要です。
- ・きぬむすめでは穂肥までに葉色が落ちた場合（7月上旬～中旬）、化成肥料17-0-17を6kg/10a程度つなぎ肥を行って下さい。